



健康社会学研究会

ニューズレター No.89

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川洋）

TEL 03-5860-4586 FAX 03-5860-4945 E-mail: h.morikawa@thu.ac.jp

ニューズレター NO.89/2019年5月 編集担当：臺有桂

第126回 定例会のご案内

テーマ：プログラム評価理論に基づいた、介護予防活動の成果評価に対する
ロジックモデルの開発

日時：6月15日(土)15時～17時(受付：14時30分)

会場：帝京平成大学中野キャンパス

(JR中央線・東京メトロ中野駅より徒歩8分)

講師：下園 美保子

愛知県立大学看護学部看護学科

参加費：会員 無料

非会員 1,000円

※月例会終了後、会員総会・懇親会を開催

さまざまな事業を展開する上で、現在とても重要視されている『評価』。みなさんは「評価」をどのような枠組みで計画していますか？今回は、「ロジックモデルを活用した評価の枠組み」をご紹介します。

「ロジックモデル」とは、『プログラムの目指すもの(目的)とそれを達成するための戦略といったプログラムの論理を明らかにするものであり、「投入(input)→結果(output)→成果(outcome)」を可視化するツール』であり、「何のためにプログラムを実施するのかという方向性(最終アウトカム)を明らかにし、戦略的にどのような介入をしたら効果的なのかを継続的に検討する上で活用されるもの(源由理子著「参加型評価」2016より引用)」とされています。

つまり、ロジックモデルを活用した評価の枠組みの構築は、現在の事業実施に必要な「評価の見える化」と「成果の上がる事業実施」に即した評価戦略ともいえます。

本月例会では、介護予防事業をテーマに、住民とのグループワークや専門家による会議の議事録を基に、アウトカム評価とプロセス評価のロジックモデルを実際に構築したので、その成果

を発表します。

第 60 回健康社会学セミナーのご報告

テーマ:そこで多職種のみんなは考えた!

「コモンリスクアプローチ」って何だろう?何ができるのか?

第1部:基調講演「歯科保健を通してコモンリスクファクターアプローチを考える」

安藤雄一氏(国立保健医療科学院 統括研究官 地域医療システム研究分野)

第2部:グループワーク

田村光平氏(東京都 多摩小平保健所)

高澤みどり氏(市原市 子育てネウボラセンター)

コーディネーター:齊藤恭平氏(東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 教授)

日時:平成31年2月16日(土)14:00~17:00

場所:東洋大学朝霞キャンパス

平成31年2月16日(土)、東洋大学朝霞キャンパスにおいて、第60回健康社会学セミナーが開催されました。記念すべき第60回のテーマは「コモンリスク(ファクター)アプローチ」です。



第1部では、基調講演として国立保健医療科学院の安藤雄一先生

から「歯科保健を通してコモンリスクファクターアプローチを考える」をテーマにご講演いただきました。このアプローチは「歯科発」の概念ということであり、歯科からの

メタボやたばこ、糖尿病、血管病に対する対策の事例を紹介いただきました。歯科発ではあるが普遍性が高く、「分野タテ割り」になりがちな生活習慣病対策にかなり期待できるのではないかとのことでしたが、ネーミングが長く浸透しにくい点や、今後も研究を進めていく必要性を指摘されていました。資料として公益社団法人日本歯科医師会が作成したリーフレット『「歯科」からのメタボ対策』を配布し、2018年度から特定健診の「標準的な質問票」に咀嚼に関する質問が加わったことや、メタボと歯科の共通リスクについて解説いただきました。

第2部では、3グループに分かれ多職種でのグループワークを行いました。参加者は、歯科医師、歯科衛生士、保健師、管理栄養士、一般事務職、研究者等多岐にわたり、各グループで自己紹介や情報交換したあと、「できたらスゴいぞ こんなこと」をワークしました。それぞれが関わっている分野から困りごとや多職種連携の現実と理想など、いろいろな報告がありました。

コーディネーターの齊藤恭平先生からは、世間一般に歯科保健の知識が普及していないこと、地域をどうダイナミックに動かしていくという視点の必要性についての指摘がありました。

今回、「コモンリスク(ファクター)アプローチ」をテーマにセミナーを開催しましたが、歯科保健関係者以外からの「何それ?」という反応に衝撃を受け、実は歯科のことはよく知られていない事実も痛感しました。共通したリスクファクターへの対策を多職種が連携して行うこと、さらにはそこに「地域」という視点を入れていくことが重要であることを認識できた貴重なセミナーとなりました。



した。

(文責 高澤みどり 健康社会学研究会運営委員)

第 61 回 健康社会学セミナーのご案内

テーマ: 大学・専門学校での受動喫煙防止対策、どう進めていますか？

日時: 7/6(土) 14:00~17:00

場所: 文化学園大学 A 館 5 階・A054 教室 (東京都渋谷区代々木 3-22-1)



新宿駅下車

南口または甲州街道改札より

甲州街道を初台方面へ徒歩 7 分

内容: 基調講演 赤田信一氏 (静岡大学教育学部)

事例報告 佐藤申氏 (学校法人文化学園 学園本部)

学生の立場から 鈴木碧氏・小泉友理氏 (文化学園大学)

指定発言 杉田秀二郎氏 (文化学園大学)

掲出 「学生による受動喫煙防止対策案」(「健康教育概論」から)

受動喫煙防止について、特に大学や専門学校では教育的配慮からも禁煙化が進められていますが、対応に苦慮しているケースも見受けられます。しかし「生涯にわたる健康」という観点からは、20 歳以降も喫煙習慣を身に付けないようにすることが重要であり、また他者への配慮も求められています。

そこで、学校での効果的な対策を考えつつ、他の場での受動喫煙防止にも役立つヒントを探っていきたいと思います。

事務局からの連絡

令和元年度総会の開催～ご出席及び委任状提出のお願い～

令和元年度総会を 6 月 15 日(土)の第 126 回定例会終了後に開催いたします。同封の総会議案書を持参の上、ご出席ください。

なお、出欠のご連絡は、6 月 12 日(水)までに同封用紙(健康社会学研究科連絡用紙)にて事務局まで郵送いただくようお願いいたします。また連絡先のご変更がある場合も当該用紙にて

併せてお知らせください。

研究会情報のメール配信

現在、会員の皆様にはニューズレター等のメール配信も行っております。未配信の会員の皆様におかれましては、事務局までメールにてご連絡ください。以後配信いたします。また既にお知らせ済みの場合でも、未配信のことがございます。その際も再度事務局までメールにてご連絡ください。なお紙媒体の郵送も引き続き行います。

令和元年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。新年度会費の納入を令和元年6月28日(金)までに、同封の払込票、もしくは銀行振込にてお願いいたします。(既にお振込み完了の場合、払込票は同封していません)

《会費納入先》

郵便振替:00100-8-41025

銀行口座:みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 松岡正純
ゆうちょ銀行(金融機関コード:9900) 当座 〇一九店(ゼロイチキュー店:店番019)
0041025 ケンコウシャカイガクケンキューカイ

令和元年度開催イベント

【6月】 第126回定例会 15日(土)15:00~17:00

テーマ:プログラム評価理論に基づいた、介護予防活動の成果評価に対する
ロジックモデルの開発

講師:下園 美保子 氏(愛知県立大学看護学部)

会場:帝京平成大学中野キャンパス ※定例会終了後、会員総会開催

【7月】 第61回セミナー 6日(土)14:00~17:00

テーマ:大学・専門学校での受動喫煙防止対策、どう進めていますか?

コーディネーター:杉田 秀二郎 氏(文化学園大学)

会場:文化学園大学新都心キャンパス

【9月】 第127回定例会 7日(土)15:00~17:00

テーマ:ティール組織ー注目される最先端の組織構造と実践例ー

講師:福島 毅氏(リンク&クリエイト)

会場:国際医療福祉大学赤坂キャンパス

【10月頃】 第128回定例会

【12月頃】 第62回セミナー

【2月頃】 第129回定例会

※ 今後のスケジュールは随時ホームページでお知らせしていきます。

「健康社会学研究会」 <http://healprokenkyukai.sakura.ne.jp/wp/>